



Midorea-OV vol.5

五泉市

ACCESS

新潟駅、新潟空港
から車で約40分



新潟県のほぼ中央、蒲原平野にある県都新潟市の南東に、五泉市は位置しています。

山間地が多い五泉市では、その71%を森林が、次いで15%を農地が占めており、全体の9割近くを豊かな森と農地が占めています。

また、阿賀野川と早出川の扇状地からなる肥沃な土地に恵まれ、その豊かな自然環境に恵まれた立地条件を活かし、稲作の単一経営、また、水稲と園芸の複合経営が盛んな地域です。

その一方で、物価高騰による農業経営の圧迫や農業従事者の減少による担い手不足など、いま、農業を取り巻く環境は非常に厳しいものとなっています。

そこで五泉市は、持続可能な農業の実現を推進するため、生産者、JA、市などの関係機関からなる五泉市有機農業推進協議会を設立し、令和7年5月に「オーガニックビレッジ宣言」を行いました。

地域の豊かな自然と共生

取組紹介

○新規生産者の獲得

紙マルチ田植機による栽培や慣行田植後の水田駆動除草機活用による省力化・効率化、経営分析等をまとめたマニュアルの作成と、これを用いた研修会の開催などにより、新たに有機農業に取り組んでくれる生産者を応援します。

○学校給食への活用

有機栽培で生産された有機農産物を市内小中学校の学校給食で使用します。

○消費促進活動

有機農産物の消費を拡大するため、関係団体と連携しセミナー等のPR活動を行います。

○有利販売促進

生産者に対し、販路開拓に向けたセミナー等を開催し、有利販売につなげます。



令和7年1月、有機農業の情報・知識を伝え、有機農業への理解を深める場として生産・消費の拡大を図るため、「五泉市有機農業産地づくり講演会」を開催しました。

講演会では、五泉市の有機農業の取組紹介と令和6年度の生産状況・有機農業実証結果の報告のあとに、新潟食料農業大学の比良松教授から、「医は食に、食は農に、農は自然に学ぶ」をテーマに食育の視点から講演を行っていただきました。来場された農家や関係機関、およそ100人が貴重な話に耳を傾けていました。



五泉市では、令和6年度より、市内4カ所で有機農業の実証試験に取り組んでいます。

紙マルチ田植機や、水田駆動除草機を活用した省力栽培技術の調査・検証により、一定の成果が得られました。

【紙マルチ田植機】

田植えと同時に専用の再生紙を敷き詰めることで、雑草を抑制。田植後から約1か月間、除草剤を使わずに雑草の伸長・繁茂を抑えることができます。

【水田駆動除草機】

回転式の爪付ロータで条間を、羽根輪やレーキなどを使い株間の雑草を間引き除去できます。

五泉市では、食育を通じた有機農業の周知と、農業への理解促進による次世代の育成を図るため、年間を通して、市内小中学校の給食で提供するご飯のすべてを、有機栽培された米で賄うことを目標としています。

令和6年度は、約1.2ヘクタールで4.8t、給食1ヵ月相当分の収穫がありました。令和7年度は、ほぼ倍の2.3ヘクタールで作付けしており、さらなる収穫が期待されます。

また、毎年、食育の一環として地元小学校の児童が田植えと稲刈りの体験を行っており、今年の一部の学校において、生産者の指導のもと、紙マルチを敷いて、農業に頼らない有機農業の実践を行いました。

